

堺市スポーツ推進プラン

令和3年2月

堺市

目次

第1章 「堺市スポーツ推進プラン」とは	1
1 策定趣旨.....	1
2 位置付け.....	2
3 計画期間.....	3
第2章 スポーツ推進に関する状況	4
1 国におけるスポーツ推進.....	4
2 堺市におけるスポーツ推進.....	6
3 堺市が誇るスポーツ資源.....	10
4 スポーツ推進に向けた課題.....	16
第3章 基本理念/基本方針/施策推進	18
1 基本理念.....	18
2 基本方針/施策推進	20
◆基本方針 1 スポーツ・運動習慣の充実	
施策 1 スポーツ・運動習慣定着による健康増進	21
施策 2 気軽にできるスポーツの機会創出	23
施策 3 多彩なスポーツ活動を通じた交流促進	24
◆基本方針 2 堺のスポーツ魅力の創出	
施策 1 特色ある大規模スポーツ施設の活用	27
施策 2 堺ゆかりのトップレベルチームとの連携強化.....	28
施策 3 世界で活躍する次世代人材の育成	30
3 目標指標.....	32
4 推進体制.....	36
5 進行管理.....	36
資料集	37
1 堺市のスポーツ施設	38
2 主なスポーツイベント	41
3 スポーツ関係団体	43

第1章 「堺市スポーツ推進プラン」とは

1 策定趣旨

近年、社会を取り巻く環境の変化、それに伴う価値観の多様化により、わたしたちのライフスタイルは急激に変化しています。

超高齢社会に伴う医療費の増加や生活様式の変化による子どもの体力の低下、地域コミュニティのつながりの希薄化などが社会的な課題となっており、スポーツを通じた健康増進や子どもの体力向上、地域活性化などに対する期待はますます高まっています。

スポーツの果たす役割がより重要視され、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、すべての人が生涯にわたりスポーツを身近なものとして親しむことができ、豊かで健やかな生活を過ごせる地域社会の実現をめざし、「堺市スポーツ推進プラン」を策定します。



2 位置付け

本プランは、国が平成 22 年 8 月に策定した「スポーツ立国戦略」及び平成 23 年 8 月に施行した「スポーツ基本法」並びに平成 29 年 3 月に策定した「第 2 期スポーツ基本計画」を踏まえ、本市の特色を活かしたスポーツ推進プランとして位置付けます。

なお、本プランの策定にあたっては、本市の上位計画である「堺市基本計画 2025」や「堺市 SDGs※未来都市計画」をはじめ、本市の関連計画との整合性を図ります。



※SDGs

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っている。

スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）抜粋

(スポーツ基本計画)

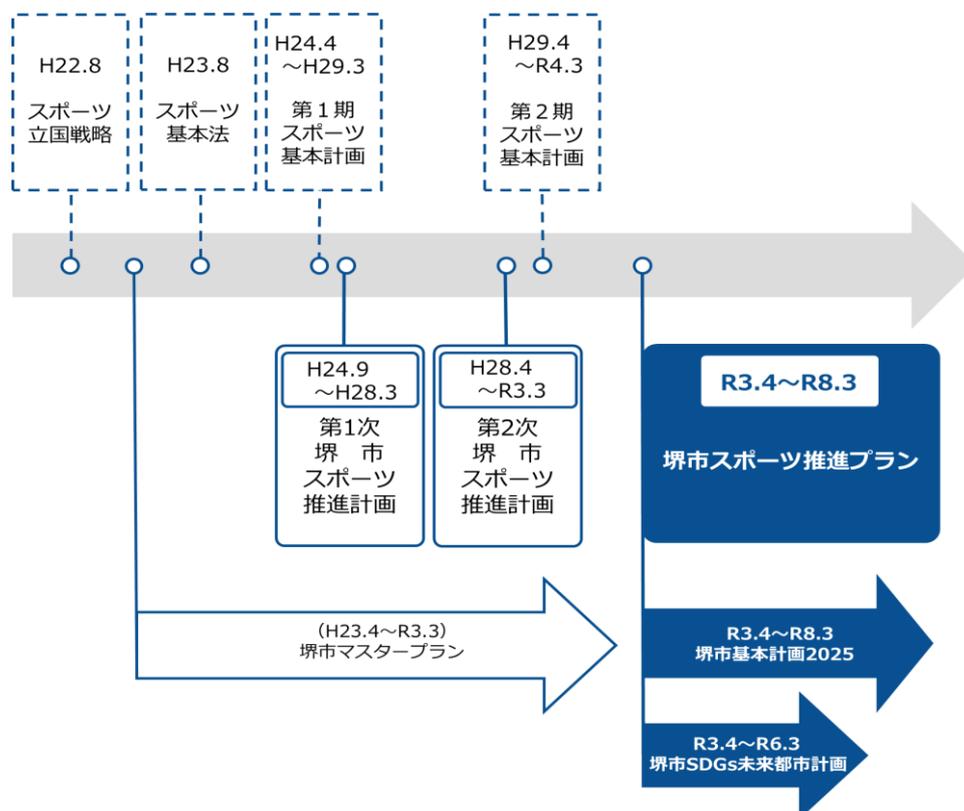
第 9 条 文部科学大臣は、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、スポーツの推進に関する基本的な計画（以下「スポーツ基本計画」という。）を定めなければならない。

(地方スポーツ推進計画)

第 10 条 都道府県及び市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 24 条の 2 第 1 項の条例に定めるところによりその長がスポーツに関する事務（学校における体育に関する事務を除く。）を管理し、及び執行することとされた地方公共団体（以下「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長）は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（以下「地方スポーツ推進計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

3 計画期間

本プランの計画期間は、令和 3 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの 5 年間とします。



第 2 章 スポーツ推進に関する状況

1 国におけるスポーツ推進

(1) スポーツ立国戦略の策定

平成 22 年 8 月策定の「スポーツ立国戦略」では、めざす姿を「新たなスポーツ文化の確立～すべての人々にスポーツを！スポーツの楽しみ・感動を分かち、支え合う社会へ～」とし、「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」、「世界で競い合うトップアスリートの育成・強化」、「スポーツ界の連携・協働による『好循環』の創出」、「スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上」、「社会全体でスポーツを支える基盤の整備」の 5 つの重点戦略が立てられました。

(2) スポーツ基本法の制定

「スポーツ立国戦略」の趣旨を踏まえ、平成 23 年 8 月に「スポーツ基本法」が施行されました。同法では、「スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与すること」を目的としています。

(3) 第 1 期スポーツ基本計画の策定

スポーツ基本法第 9 条の規定に基づき、同法の理念を具体化し、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国の実現をめざすための重要な指針として、平成 24 年 3 月に「第 1 期スポーツ基本計画」が策定されました。

(4) スポーツ庁の創設

「スポーツ基本法」の趣旨を踏まえ、スポーツを通じ「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活」を営むことができる「スポーツ立国」の実現を最大の使命とし、オリンピック・パラリンピックから、国民の健康増進に関する取組に至るまで、すべてのスポーツに関する施策を総合的に推進するための組織として、平成 27 年 10 月にスポーツ庁が発足しました。

(5) 第 2 期スポーツ基本計画の策定

「第 1 期スポーツ基本計画」の期間満了に伴い、平成 29 年 3 月に「第 2 期スポーツ基本計画」が策定されました。同計画では、国民が「『する』、『みる』、『ささえる』といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものとすることを期待」し、スポーツで「人生が変わる」、「社会を変える」、「世界とつながる」、「未来を創る」の 4 つの指針を立て、すべての国民に「スポーツの価値」を発信しています。

(6) 大規模国際大会の開催

①ラグビーワールドカップ 2019 日本大会

令和元年の 9 月から 11 月にかけて「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」が開催されました。第 9 回目となる本大会は、アジア初のラグビーワールドカップとして、全国 12 会場で熱戦が繰り広げられました。

②東京 2020 オリンピック・パラリンピック

平成 25 年 9 月、国際オリンピック委員会 (IOC) 総会において、夏季オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決まりました。昭和 39 年以来 57 年ぶりとなる「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」(オリンピック:33 競技 339 種目、パラリンピック:22 競技 540 種目) は、世界が力を合わせ、安全・安心な大会として令和 3 年 7 月の開催をめざし取組が進められています。

③ワールドマスターズゲームズ 2021 関西

令和 4 年には「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」がアジアで初めて開催されます。おおむね 30 歳以上であれば、すべての人が参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会であり、35 競技 59 種目が関西一円で開催されます。

2 堺市におけるスポーツ推進

(1) スポーツ施設の整備

① 体育館

地域のスポーツ活動の拠点として、昭和 46 年に開設した大浜体育館をはじめ、鴨谷、初芝、金岡公園、家原大池の各体育館を整備しました。また、平成 17 年の美原町との合併により美原体育館と美原 B&G 海洋センター体育館が加わり、さらに、平成 19 年には原池公園体育館を整備し、7 区すべてに体育館を整備しました。

② 大規模スポーツ施設

平成 22 年に開設した J-GREEN 堺は、サッカーフィールド 16 面、フットサルフィールド 8 面などを備えた日本最大級の施設規模を誇るサッカー・ナショナルトレーニングセンターとして、年間約 80 万人の来場者を迎えています。

令和 2 年には南大阪最大規模の 5,000 人を収容できる本市初の本格的な野球場であるくら寿司スタジアム堺（原池公園野球場）を開設しました。

さらに、令和 3 年には大浜体育館を建て替え、南大阪最大規模の約 3,000 席のアリーナや本市の武道振興の拠点となる武道館を備えた大浜体育館・大浜武道館へと生まれ変わりました。

③ 特色あるスポーツ施設

堺第 7-3 区に、みなと堺グリーンひろばとして、平成 16 年に運動ひろば野球場（軟式野球場 4 面）、平成 21 年に硬式野球場（2 面）、平成 23 年に芝生ひろば運動場（ソフトボール場 2 面、多目的グラウンド 1 面）を順次整備し、市民のスポーツ・コミュニケーションの場となっています。

また、平成 21 年には屋内プールやトレーニング室、テニスコート、多目的グラウンドを備えた美原総合スポーツセンターを開設し、市民の健康増進に貢献しています。

さらに、平成 23 年には「東京 2020 オリンピック」の正式種目となるスケートボードを楽しめる施設として、原池公園スケートボードパークを整備し、若者たちを中心に親しまれています。

(2) スポーツ活動の推進

①堺市民オリンピックの開催

堺市民オリンピックは、昭和 50 年に市民の健康増進や体力向上、スポーツマンシップの高揚を図ることを目的に、第 1 回大会が開催されて以来、市民に親しまれている本市最大のスポーツイベントです。各小学校区対抗で全 7 競技（陸上、バレーボール、ソフトボール、卓球、ゲートボール、綱引、グラウンド・ゴルフ）を金岡公園陸上競技場を中心に開催し、市内小学校区が一堂に会してスポーツ交流を行う機会となっています。

②総合型地域スポーツクラブ[※]の設立

総合型地域スポーツクラブは、幅広い年代の市民が、生涯を通じて身近な地域で様々なスポーツに親しむことができるクラブであり、市民の運動習慣化や健康増進につながるものです。

本市では、平成 19 年に錦綾健康づくりクラブ、平成 29 年にクラブ登美丘南、令和 2 年には桃教スポーツアカデミーが設立され、地域のスポーツ活動の担い手としての役割を担っています。

※総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと。

③トップレベルチームとの連携

本市は、スポーツを通じた地域活性化に向けて、平成 25 年にセレッソ大阪堺レディース、平成 26 年にセレッソ大阪のホームタウンとなりました。

また、平成 29 年には堺ブレイザーズと連携協定を締結しました。

さらに、令和 2 年にはくら寿司スタジアム堺が完成したことを契機とし、オリックス・バファローズと連携協定を結んでいます。

トップレベルチームとの連携協定に基づき、子どもたちへのスポーツ教室や選手との交流事業、ホームゲームの開催、本市の PR など、様々な連携事業を実施しています。

④スポーツ・運動習慣化への取組

市民が継続的にスポーツや運動に取り組むきっかけをつくるため、体力測定会を大学や堺市ボランティアスポーツ指導者会などと連携して定期的に開催しています。

また、各小学校区のスポーツ推進委員と連携し、地域でスポーツ体験会を開催するなど、様々な形でスポーツをする機会を創出しています。



グラウンド・ゴルフは年齢に関係なく、子どもから高齢者までが一緒にチームとなって競い、「みんなで一緒に」楽しめるスポーツです。堺市内でも多くの方が楽しんでいます。



体力測定会では反復横跳びや立ち幅跳び、握力測定など各種体カテストを実施しています。

⑤大規模国際大会のレガシー

令和元年9月から11月にかけて「ラグビーワールドカップ2019日本大会」が開催されたことに伴い、ラグビー日本代表チームの事前キャンプをJ-GREEN堺に誘致し、キャンプ期間中、日本代表選手による小学生対象のラグビー教室や市内障害者支援施設への選手訪問を行いました。

また、大会公認キャンプ地として4か国の代表チームをJ-GREEN堺で受け入れ、代表選手による市内の小中学校訪問や「のびのびルーム（放課後児童対策事業）」の訪問を行ったほか、代表選手と市民の交流イベントなどを実施しました。大会期間中は、市内の大規模商業施設においてパブリックビューイングを実施し、本市に滞在した代表チームを市民と一緒に応援しました。

これらの取組により、子どもたちが夢を育むことや市民のスポーツへの関心向上につなげました。

また、令和3年7月開催予定の「東京2020パラリンピック」に出場するアルゼンチン共和国男子5人制サッカー代表チームの事前キャンプをJ-GREEN堺で受け入れる協定を令和元年10月に締結しています。

さらに、令和4年に開催される「ワールドマスターズゲームズ2021関西」では、J-GREEN 堺がサッカー・フットサル種目の競技会場となっており、世界各国のスポーツ愛好者が堺に集います。

これらの大規模国際大会をきっかけにスポーツへの関心を高め、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、スポーツを通じた国内外の交流の輪を広げ、レガシーとして次世代に継承します。



ラグビー日本代表による
小学生ラグビースクール風景
(場所:J-GREEN 堺)



ラグビージョージア代表と
のびのびルーム児童との交流風景
(場所:堺市立市小学校)



ラグビーワールドカップ2019日本大会
パブリックビューイング風景
(場所:イオンモール堺鉄砲町)

3 堺市が誇るスポーツ資源

(1) 大規模スポーツ施設

本市は、年間約 80 万人に利用される日本最大級のサッカー・ナショナルトレーニングセンターである J-GREEN 堺や南大阪最大規模の野球場であるくら寿司スタジアム堺、トップレベルチームの試合観戦が行えるアリーナなどを備えた大浜体育館・大浜武道館といった大規模スポーツ施設を整備しています。これらの施設は、多様な市民ニーズに応え、多くの市民がスポーツに親しめるスポーツ交流拠点となっています。

① J-GREEN 堺



毎年約 80 万人が来場する日本最大級のスポーツ施設です。



「J-GREEN 堺」のロゴマーク



屋根付きフットサルフィールド(3面)
サッカーのハーフコート利用や企業等の運動会等の多目的スペースとしても利用されています。

〈施設規模・機能〉

育成世代から各国代表チームまで、幅広い世代やレベルの競技者に利用される日本最大級のサッカー・ナショナルトレーニングセンターとして、平成 22 年に臨海部（堺 2 区）に開設しました。43 ヘクタールの広大な敷地に、天然芝サッカーフィールド 5 面、人工芝サッカーフィールド 11 面、人工芝フットサルフィールド 8 面（うち 3 面は屋根付き）をはじめ、クラブハウスやロッカーハウスなどの付帯施設も設けています。

〈大規模国際大会での活用〉

「東京 2020 パラリンピック」では、アルゼンチン共和国男子 5 人制サッカー代表チームの事前キャンプを受け入れるほか、「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」では、サッカー・フットサル種目の競技会場となっています。

〈JFA アカデミー堺〉

全国各地から選抜された女子中学生を対象に、長期的視点に立った育成プログラムのもと、将来のなでしこジャパン（サッカー日本女子代表）の輩出を見据え、世界に通用する選手育成を行う JFA アカデミー堺が運営されています。

〈DREAM CAMP〉

大阪府サッカー協会（OFA）が運営する宿泊施設「DREAM CAMP」（客室 62 室、最大収容人数 286 人）は、JFA アカデミー堺の運営やサッカー日本代表チームのキャンプ、各種全国大会の開催時などに活用されています。

②くら寿司スタジアム堺（原池公園野球場）



グラウンドは両翼 100m、センター122m
内野:黒土 外野:天然芝



ナイター照明により、夜間利用も可能

令和 2 年 4 月に開設した本市初の本格的な野球場であり、屋内ブルペンや練習場を備え、5,000 人の観客を収容できる南大阪最大規模の施設です。

夏の高校野球大阪大会やプロ野球 2 軍戦の開催をはじめ、トップレベルのチームや選手による野球教室の開催などを通じて、質の高い環境で野球に親しむことができます。

本市初のネーミング・ライツ（施設命名権）を導入した施設であり、くら寿司株式会社が権利取得し、「くら寿司スタジアム堺」と名付けられました。

③大浜体育館・大浜武道館



公園をやさしく照らす旧堺燈台をイメージした外観デザイン



約 3,000 席の観客席に囲まれた一体感と臨場感あふれるアリーナ

大浜体育館・大浜武道館（令和 3 年 4 月リニューアルオープン）は、南大阪最大規模の約 3,000 席の観客席を備えたアリーナや本市の武道振興の拠点となる武道館などを備えた施設です。

子どもから高齢者まで幅広い世代の市民が、安全で快適にスポーツに取り組むことができ、堺ブレイザーズなどトップレベルチームの試合観戦も可能となります。大浜公園内に立地し、旧堺燈台など堺旧港周辺の歴史や文化を身近に感じられる施設となっています。

(2) スポーツイベント

本市では、市民参加型の大規模スポーツ大会や歴史ある全国大会、世界からアスリートが集う国際大会等が開催されています。本市の特色あるスポーツイベントを通じて、多くの市民がスポーツに親しむ機会を創出しています。

①堺市民オリンピック

昭和 50 年から開催されている堺市民オリンピックは、市民のスポーツの祭典として、健康増進、体力向上、スポーツマンシップの高揚を図ることを目的とし、陸上競技、ソフトボール、バレーボール、卓球、ゲートボール、綱引、グラウンド・ゴルフの 7 種目の競技が金岡公園陸上競技場を中心に市内の各スポーツ施設で開催されています。例年、大会に向けてスポーツを通じた地域交流が図られ、また大会当日は競技者と観客を合わせて約 1 万人が集い、地域間の市民交流機会となっています。



各小学校校区から代表選手団を選出



中学生による陸上競技

②全国学生相撲選手権大会

大正 8 年に、第 1 回目の「全国学生相撲大会」が開催された大浜公園相撲場は「学生相撲発祥の地」としての歴史をもち、「全国学生相撲選手権大会」（両国国技館と隔年開催）をはじめ、今日まで数々の全国大会が開催されています。

また、「全日本女子相撲選手権大会」、「西日本実業団相撲選手権大会」、「世界相撲選手権大会」、「世界ジュニア相撲選手権大会」などの大会が開催され、世界各地から幅広い世代の選手が本市を訪れています。



第 97 回全国学生相撲選手権大会

提供：西日本学生相撲連盟

③ ツアー・オブ・ジャパン

毎年 5 月に開催されている日本最大級の自転車の国際ステージレース「ツアー・オブ・ジャパン」(世界各国から最大 16 チーム、96 名が出場)では平成 8 年の第 1 回の開催から、本市がオープニングステージとなっています。



提供:ツアー・オブ・ジャパン組織委員会 堺ステージ実行委員会

(3) スポーツ団体/機関

本市では、国内リーグに参戦し、市民に愛されているトップレベルチームが活動しています。トップレベルチームの活動は、子どもたちが将来の夢を育み、可能性に挑戦するきっかけとなり、市民のスポーツへの関心向上につながっています。

① トップレベルチーム

本市では、堺ブレイザーズ、セレッソ大阪、セレッソ大阪堺レディース、オリックス・バファローズなどの国内リーグで活躍するトップレベルチームが、イベント参加を通じた市民との交流やスポーツ教室、ホームゲーム開催、本市の PR 活動などを行い、市民に愛される地域密着型のチームとして地域に貢献しています。

堺ブレイザーズ



©Blazers sports club

セレッソ大阪・セレッソ大阪堺レディース



©CEREZO OSAKA SPORTS CLUB

オリックス・バファローズ



©ORIX Buffaloes

②JFA アカデミー堺

日本サッカー協会（JFA）が、平成 24 年 4 月から J-GREEN 堺を拠点とし、将来のなでしこジャパンで活躍する選手の育成、世界基準の人材育成をめざすエリートプログラムを実施しています。

アカデミー生は、全国各地から選考された女子中学生であり、堺市立月州中学校に通いながら、J-GREEN 堺でトレーニングを行っています。



JFA アカデミー堺メンバーでの集合写真



日々のトレーニング風景

4 スポーツ推進に向けた課題

課題 1 スポーツへの関心向上

文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(令和元年度)において、本市の小学生は体育や部活動を除いた週あたりの運動時間(堺市平均424.9分)が、全国平均(453.9分)に比べて短いことが示されています。また、同調査において、本市の中学生では、運動する生徒と運動しない生徒の二極化の傾向がみられます。

「堺市民の運動・スポーツ活動の状況や堺市民オリンピックに関する市民意向調査」(平成30年度)では、昨今の健康意識の高まりを受けて、スポーツを定期的に行う市民の割合は増加傾向にあります。しかし、年代別・世代別に見ると20歳代から40歳代のビジネスパーソンや子育て世代が、他の世代に比べてスポーツを行う割合が低くなっています。

子どもやビジネスパーソン、子育て世代に対し、スポーツへの関心向上に取り組む必要があります。

課題 2 身近に行える地域スポーツ活動の充実

「健康さかい21(第2次)評価報告書」(平成29年度)では、「大いに運動不足だと思う」または「少し運動不足だと思う」市民の割合が半数を超えていることが示されています。

また、本市における総合型地域スポーツクラブの数は3クラブであり、総合型地域スポーツクラブや地域におけるスポーツ活動の仕組みが他の政令指定都市と比べて少ない状況です。

運動不足であると感じている市民、気軽にスポーツを行いたい市民に対し、身近な地域でスポーツができる環境を整え、情報提供を充実させる必要があります。

課題 3 大規模スポーツ施設の有効活用

本市は、J-GREEN 堺をはじめ、くら寿司スタジアム堺や大浜体育館・大浜武道館といった大規模スポーツ施設を整備しています。

今後、これらの大規模スポーツ施設の規模や特色を最大限活用して、国際的なスポーツイベントや全国大会の誘致、トップレベルチームのホームゲーム開催などに取り組み、本市のスポーツ魅力を高める必要があります。

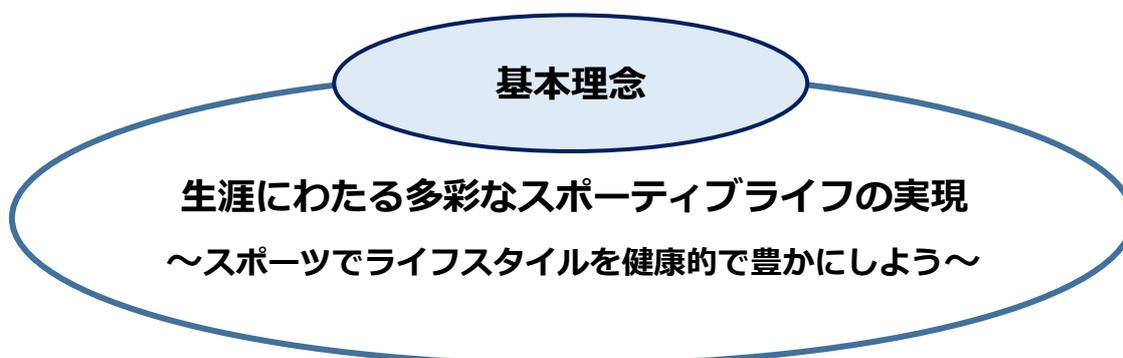
また、スポーツツーリズム※の推進にも取り組み、スポーツを活用した地域の活性化や交流人口の増加を図る必要があります。

※スポーツツーリズム

プロスポーツの観戦やスポーツイベントなどの参加者と開催地周辺の観光を融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などをめざす取組のこと。

第3章 基本理念/基本方針/施策推進

1 基本理念



スポーツ庁が定める「第2期スポーツ基本計画」では、「スポーツを生活の一部とすることで、人生を楽しく健康で生き生きとしたものにできる」とされています。

スポーツをすることで、子どもたちの心身の健全育成や体力・運動技能の向上が図られます。

また、運動不足から生じる生活習慣病の予防や社会保障費の削減効果が期待でき、健康寿命の延伸による健康長寿社会の実現にもつながります。

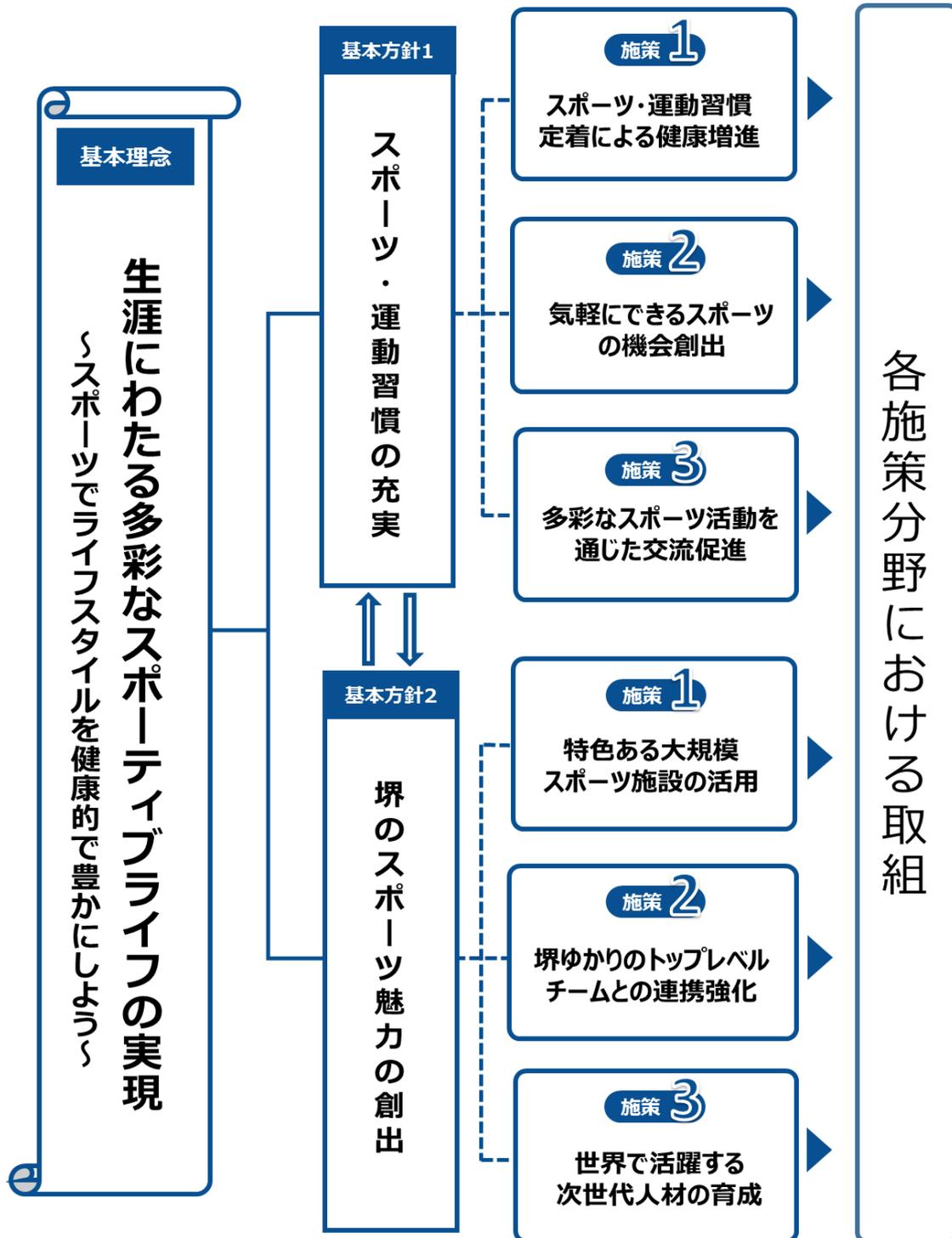
そして、スポーツが日々の活力や生きがいの創出につながるだけでなく、地域コミュニティの醸成や世代間交流に貢献し、活力に満ちた地域社会の形成が期待できます。

さらに、国際大会や全国大会等においてトップレベルチームやトップアスリートが活躍する姿は、夢や感動を与え、自らスポーツを行うきっかけにもつながります。

このようにスポーツは、健康増進をはじめ、人と人をつなぐ、夢や感動を与えるなどの様々な可能性を持っており、人々の人生に彩りを与えてくれます。

そこで、本プランでは、ライフスタイルに応じて、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、すべての人が生涯にわたりスポーツを身近なものとして親しむことができ、豊かで健やかな生活を過ごせる地域社会の実現をめざすことを基本理念とします。

体系図



2 基本方針/施策推進

基本理念の実現に向け、2つの基本方針により、本市におけるスポーツの推進に取り組みます。

基本方針 1 スポーツ・運動習慣の充実

スポーツや運動の継続的な実施を通じて、健康増進が期待できるため、ライフステージに応じたスポーツ・運動習慣を充実します。

また、幅広い世代の市民が、スポーツを身近な場所で気軽に行う機会を創出することで、スポーツ・運動習慣の充実をめざします。

年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、すべての人が身近にスポーツに親しめる環境を整えます。多くの市民がスポーツ活動に参加できるきっかけをつくり、若者や高齢者、障害者などが互いに支えあう共生社会※の実現をめざします。

※共生社会

すべての人が相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会のこと。

施策 1 スポーツ・運動習慣定着による健康増進

SDGs



(1) 健康につながるスポーツ・運動の推進

体力向上や健康寿命の延伸などを図るため、子どもから高齢者がスポーツや運動を継続して行うための取組を実施します。

また、新型コロナウイルス感染症により、テレワークの実施や外出自粛など自宅で過ごす時間が増えたことによる運動不足が報告されています。そのため、ICT※を活用したバーチャル映像やリモート配信による自宅で行える運動の紹介を行うなど、新しい生活様式における運動習慣の定着に取り組めます。

さらに、安全・安心にスポーツを親しめる環境を整えるため、新型コロナウイルス感染症対策として、感染拡大予防のためのガイドラインを作成し、市民や各指定管理者、大会主催者などへの共有を徹底します。

※ICT

「Information and Communication Technology」の略称。通信技術を活用したコミュニケーションであり、インターネットのような情報技術を利用した産業やサービスなどの総称のこと。

(2) 子どもたちのスポーツ・運動の推進

子どもたちがスポーツに親しむ環境を整え、楽しみや充足感を得て、健やかな生活を送ることができるよう、学校教育活動やこども会活動などにおいてスポーツ・運動を推進します。

そのために、学校体育や部活動における取組をはじめ、地域の体育館におけるスポーツ教室の開催やこども会、市内の少年少女が入団しているスポーツ少年団の活動の充実に取り組めます。

(3) ビジネスパーソンや子育て世代へのスポーツ・運動の推進

余暇時間が少ないビジネスパーソンに対し、その限られた時間でできるスポーツ・運動や職場でのスポーツの推進に取り組めます。

また、子育て世代に対しては、自宅でできる運動をはじめ、親子で参加できるスポーツ・運動の機会を提供します。

(4) 高齢者のスポーツ・運動の推進

高齢者の認知症予防やフレイル※予防などにつながる健康教室の開催や地域自主活動グループの支援、健康増進につながる取組の情報発信をすることで、高齢者のスポーツ・運動の推進を図ります。

※フレイル

加齢に伴って、心身の活力（身体的機能や認知機能など）の低下が見られる状態のこと。健康な状態と要介護状態の中間的な段階とされている。

■主な取組

健康につながるスポーツ・運動の推進
○ICTを活用したウォーキング、ランニング、サイクリングの推進 ○新しい生活様式におけるスポーツ・運動の推進 ○感染拡大予防のためのガイドライン遵守 ○運動中の事故防止の啓発
子どもたちのスポーツ・運動の推進
○体力向上に向けた小中学校の取組支援 ○指導者派遣による運動部活動の支援 ○武道の推進 ○「小学校体育指導の手引き」の活用 ○体育館等における子ども向けスポーツ教室の開催 ○スポーツ少年団活動の充実 ○保護者に向けた講習会の開催
ビジネスパーソンや子育て世代のスポーツ・運動の推進
○職場でのスポーツ・運動実施啓発 ○親子スポーツ教室の開催 ○家族で参加できるスポーツイベントの開催 ○自宅でできるスポーツ・運動の情報発信 ○民間の情報サイトを活用したスポーツイベントの情報発信

高齢者のスポーツ・運動の推進

- 高齢者のニーズに応じたスポーツ教室の開催
- 自主活動グループの育成・支援
- 健康増進を目的とした体操の普及
- スポーツ・運動を通じた健康増進につながる取組の情報発信

施策 2 気軽にできるスポーツの機会創出

SDGs



(1) 地域のスポーツ機会の創出

地域の体育館やスポーツ施設において、初心者でも気軽に参加できるスポーツ教室を開催します。

身近な学校施設や公園、緑道を活用したスポーツ活動を推進します。

また、スポーツイベント情報や施設情報を SNS など様々な媒体を活用して広く発信します。さらに、体育館等を市民が安全・安心に利用できるよう、適切な維持管理と効果的、効率的な施設運営を行います。

(2) 身近にスポーツ・運動に取り組む仕組みの強化

総合型地域スポーツクラブは、地域におけるスポーツ活動を推進するために効果的な仕組みであるため、クラブの創設や加入者の増加、指導者の育成、活動拠点の確保などの支援を行います。

地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員の活動を支援し、地域のスポーツ活動の充実やスポーツ活動団体の育成など、幅広い取組を推進します。

地域の大学や民間企業は、人材や施設、情報、技術などを有しており、大学等との連携を通じ、市民のスポーツ活動の充実を図ります。

また、スポーツ推進に取り組む総合型地域スポーツクラブや各競技団体の活動内容などの情報提供を充実し、市民の参画機会へとつなげます。

スポーツ関係団体がスポーツ大会を開催する際には、資金面においてクラウドファンディングの活用なども検討し、継続的な大会の開催につなげます。

■主な取組

地域のスポーツ機会の創出
<ul style="list-style-type: none"> ○身近な体育館等におけるスポーツ教室の開催 ○公園や緑道を活用したスポーツの推進 ○学校施設を活用したスポーツの推進 ○安全・安心に利用できる施設の維持管理 ○スポーツイベントや施設情報等の発信強化
身近にスポーツ・運動に取り組む仕組みの強化
<ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブの創設 ○スポーツ推進委員の活動支援 ○スポーツ関係団体との連携強化 ○地域の大学や民間企業との連携強化 ○スポーツ関係団体の情報発信強化

施策 3 多彩なスポーツ活動を通じた交流促進



(1) 障害者スポーツの推進

障害者が身近な地域でスポーツ・運動に親しめるよう、健康福祉プラザスポーツセンターを拠点とし、スポーツ関係者や障害福祉関係者との連携のもと、スポーツ・運動を始める機会の提供やその活動を継続するための支援に取り組めます。

また、障害者のスポーツ大会等への参加支援を行い、スポーツに取り組む障害者が日頃の成果を発揮する機会を提供します。

さらに、「東京 2020 パラリンピック」を契機とした市民とパラリンピアンとの交流を図り、インクルーシブ※な考え方に基づいたスポーツの推進につなげます。

※インクルーシブ

「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）という言葉から来ており、「すべての人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念を表している。

(2) スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成

スポーツを推進するためには、指導者やボランティアの存在が欠かせません。多様化するスポーツのニーズに応える指導者の育成やマッチング、大規模大会を契機とするスポーツボランティアの育成を行うなど、スポーツを支える活動を支援します。

また、スポーツ指導者等のスポーツ・ハラスメント予防の理解を深め、より多くの市民が安心してスポーツに参加できる環境を整えます。

(3) 多彩なスポーツ交流の促進

市民参加型のスポーツ大会の開催、ニュースポーツの普及促進など、幅広い世代がスポーツを通じて交流を深める機会を提供します。

また、スポーツ大会において、ICT を活用したリモート観戦など、より多くの市民が観戦、応援できる仕組みを構築します。

■主な取組

障害者スポーツの推進
○健康福祉プラザスポーツセンターの機能強化 ○障害者スポーツ大会等への参加支援 ○「東京 2020 パラリンピック」を通じた相互理解促進 ○障害者スポーツに関する情報発信 ○障害者スポーツ指導者の養成
スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成
○地域のスポーツ指導者の養成 ○スポーツ指導者への多様性の理解促進 ○スポーツ指導者の活躍推進 ○スポーツボランティアの育成
多彩なスポーツ交流の促進
○堺市民オリンピックによる地域交流 ○市民参加型スポーツイベントの開催 ○ニュースポーツの普及促進 ○全国健康福祉祭（ねんりんピック）本大会への選手団派遣 ○リモートでつながる新しい観戦スタイルの促進

基本方針 2 堺のスポーツ魅力の創出

本市は、日本最大級の施設規模を誇る J-GREEN 堺に加え、南大阪の野球振興拠点となるくら寿司スタジアム堺や南大阪最大規模のアリーナと武道館からなる大浜体育館・大浜武道館などにより、これまで以上に多様なニーズに応えることのできるスポーツ環境が整いました。

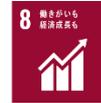
また、本市にゆかりのあるトップレベルチームとの連携事業を充実することにより、さらなるスポーツの魅力向上が期待できます。

さらに、堺からトップアスリートを輩出し、世界で活躍することは、市民のスポーツへの関心向上やシビックプライドの醸成にもつながります。

本市が誇るスポーツ資源を有効活用し、本市独自のスポーツ文化の普及をめざします。

施策 1 特色ある大規模スポーツ施設の活用

SDGs



(1) 大規模国際スポーツ大会に伴うイベントの開催

J-GREEN 堺を活用した「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」における事前キャンプ誘致や「ワールドマスタースゲームズ 2021 関西」におけるサッカー・フットサル種目の開催により、世界からトップアスリートやスポーツ愛好者を受け入れます。これらの国際スポーツ大会を契機として、本市の魅力と活力を高めるほか、市民に国際交流の機会を提供します。

(2) 全国大会等の誘致・開催

夏の高校野球大阪大会をくら寿司スタジアム堺で行い、高校球児をはじめとした子どもたちの夢と憧れを育みます。

大浜体育館では、大規模アリーナにおいて堺ブレイザーズなどトップレベルチームの試合観戦が可能となり、スポーツへの関心向上やシビックプライドの醸成につながります。また、大浜武道館を武道振興の拠点として、全国規模の大会を誘致することで市内の武道振興を図ります。

J-GREEN 堺、くら寿司スタジアム堺、大浜体育館・大浜武道館を活用した大規模大会やホームゲームの開催を通じて、宿泊や市内観光など、スポーツツーリズムを推進し、地域の活性化につながります。

また、安全・安心にスポーツ施設を利用できるように、指定管理者と連携し、計画的かつ効率的な管理運営を行うほか、施設規模や特色ある施設機能を活かしたスポーツイベントの開催などにより、大規模スポーツ施設の有効活用を図ります。

さらに、施設の大規模改修や更新にあたっては、PFI 手法※など民間活力の導入を検討し、よりよいサービスの提供を行います。

※PFI 手法

「Private Finance Initiative」の略称。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の持つ経営ノウハウや資金を活用することで、低廉かつ良質な公共サービスを提供することを目的とした公共事業の手法。

■主な取組

大規模国際スポーツ大会に伴うイベントの開催
○「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」によるスポーツ機運の醸成
○「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」（サッカー・フットサル種目）の開催
○国際スポーツイベントの開催
○国際親善大会の開催
全国大会等の開催
○夏の高校野球大阪大会の開催（くら寿司スタジアム堺）
○プロ野球 2 軍戦の開催（くら寿司スタジアム堺）
○堺ブレイザーズのホームゲーム開催（大浜体育館）
○セレッソ大阪堺レディースのホームゲーム開催（J-GREEN 堺）
○武道の全国大会等の開催

施策 2 堺ゆかりのトップレベルチームとの連携強化

SDGs



(1) ホームゲームの開催

大浜体育館では堺ブレイザーズ、J-GREEN 堺ではセレッソ大阪堺レディースのホームゲームを開催し、くら寿司スタジアム堺ではオリックス・バファローズ 2 軍戦を開催します。これらのチームに本市をホームタウンの一つとするセレッソ大阪を加えたトップレベルチームを、市民が一丸となって応援することで、シビックプライドの醸成につなげます。また、ホームゲームの観戦を通じて子どもの夢や希望を育みます。

(2) トップレベルチームとの連携による情報発信

本市をホームタウンとするチームの国内リーグ戦などの機会を活かして、全国に向けて本市の PR を行い、都市イメージを高めます。

また、民間のスポーツ情報サイトなども活用し、トップレベルチームの

ホームゲームやスポーツイベントなどを本市の魅力として発信します。

(3) 市民交流の促進

トップレベルチームとの連携により、子どもたちへのスポーツ教室や選手との交流イベントを開催するほか、部活動や総合型地域スポーツクラブ等へ指導者を派遣することで、チームと市民の交流を促進し、市民のスポーツへの関心を高めます。

■主な取組

ホームゲームの開催
<ul style="list-style-type: none"> ○プロ野球 2 軍戦の開催（くら寿司スタジアム堺）（再掲） ○堺ブレイザーズのホームゲーム開催（大浜体育館）（再掲） ○セレッソ大阪堺レディースのホームゲーム開催（J-GREEN 堺）（再掲） ○ホームゲームにおける市民優待デーの実施
トップレベルチームとの連携による情報発信
<ul style="list-style-type: none"> ○国内トップリーグ参戦による堺市の PR ○大規模スポーツ施設を活用したホームタウンの魅力発信 ○民間のスポーツ情報サイトを活用したホームタウンの情報発信 ○地域の交通機関や商業施設との連携によるホームタウンの情報発信
市民交流の促進
<ul style="list-style-type: none"> ○市民とトップレベルチームの交流イベントの開催 ○子ども向けスポーツ教室の開催 ○地域のスポーツ指導者の指導力向上支援 ○部活動やのびのびルームへのスポーツ指導者派遣 ○総合型地域スポーツクラブへのスポーツ指導者派遣

施策3 世界で活躍する次世代人材の育成

SDGs



(1) 日本サッカー協会（JFA）との連携

J-GREEN 堺を拠点とする JFA アカデミー堺と連携し、スポーツを通じて夢や希望を育み、可能性を発揮して世界で活躍する次世代人材の育成を支援します。

また、子どもたちを対象としたスポーツ教室やトップアスリートによる小、中学校での特別授業を、日本サッカー協会（JFA）との連携により開催します。

(2) トップアスリートと子どもたちの交流促進

トップレベルチームに所属する選手や本市出身のトップアスリートと連携したスポーツ教室をはじめ、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」に出場するオリンピックやパラリンピアンによる交流イベントにより、子どもたちの憧れであるトップアスリートとの交流機会を提供します。

(3) 競技力向上の支援

地域に密着した活動を展開するスポーツ少年団との連携や指導者派遣による運動部活動の支援を通じて、子どもたちがスポーツに打ち込み、成長する機会を提供します。

さらに、子どもたちがスポーツに対する情熱や意欲を高め、自らを成長させる機会となる国際大会や全国大会への出場支援を行います。

■ 主な取組

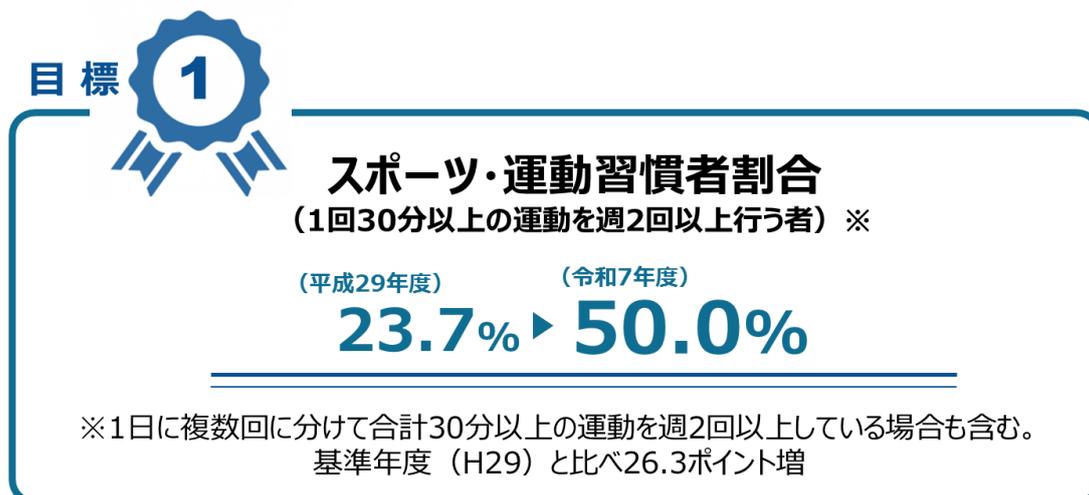
JFA との連携

- JFA アカデミー堺と連携した人材育成
- JFA による小、中学校への出前講座
- JFA による子ども向けスポーツ教室の開催

トップアスリートと子どもたちの交流促進
<ul style="list-style-type: none"> ○トップアスリートによる子ども向けスポーツ教室の開催 ○「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」を契機とした交流イベントの開催
競技力向上の支援
<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ少年団活動の充実（再掲） ○指導者派遣による運動部活動の支援（再掲） ○学生の国際大会及び全国大会の出場支援

3 目標指標

本プランの着実な推進、成果の客観的な評価のために、2つの目標となる指標を設定します。



「人生100年時代」を迎え、子どもから高齢者まですべての人がいくつになっても心身ともに健康で活躍し続けるためには、健康寿命の延伸に向けた取組が重要となっています。

厚生労働省では、運動習慣者を「週2回以上、1回30分以上、1年以上、運動を行う者」と定義し、健康増進には、週2回以上の運動習慣が効果的としています。

スポーツや運動を継続的に実施することは、体力向上や健康増進につながるため、本プランでは、1回30分以上の運動を週2回以上行う者の割合を目標指標に設定します。

また、10分程度の運動を1日に数回行うことでも健康への効果が期待できるとされており、1日のうちに複数回に分けて合計30分以上の運動を週2日以上行う場合も運動習慣者に含むものとします。

平成29年度時点では、4人に1人であったスポーツ・運動習慣者割合(23.7%)を目標年度の令和7年度において、2人に1人(50.0%)となることをめざします。

<目標達成に向けて>

基本方針1 スポーツ・運動習慣の充実

施策1

スポーツ・運動習慣 定着による健康増進

～主な取組～

- ICTを活用したウォーキング、ランニング、サイクリングの推進
- 指導者派遣による運動部活動の支援
- 家族で参加できるスポーツイベントの開催

施策2

気軽にできるスポーツの 機会創出

～主な取組～

- 安全・安心に利用できる施設の維持管理
- スポーツイベントや施設情報等の発信強化
- 総合型地域スポーツクラブの創設

施策3

多彩なスポーツ活動を通じた交流促進

～主な取組～

- 障害者スポーツ大会等への参加支援
- ニュースポーツの普及促進
- リモートでつながる新しい観戦スタイルの促進

現状値

スポーツ・運動習慣者割合
(1回30分以上の運動を週2回以上行う者)

23.7% (平成29年度基準値)

目標に向けた主な取組

- ・個人のライフスタイルに合わせて気軽に行うことができるスポーツ・運動の推進
(例：ウォーキング、サイクリング、ストレッチ、ラジオ体操)
- ・総合型地域スポーツクラブの創設による地域スポーツ活動の推進
- ・民間連携による様々な媒体を活用したイベント情報の発信強化
- ・「ワールドマスターズゲームズ2021関西」を契機とした生涯スポーツの推進

令和3年度 **23.7%**

令和4年度 **30%**

令和5年度 **37%**

令和6年度 **44%**

令和7年度 **50%**

(1日に複数回に分けて合計30分以上の運動を週2回以上している場合も含む。)

目標



市内体育館等スポーツ施設利用者数

5年間累計 100万人増

(令和3年度～令和7年度)

平成27年度から令和元年度の5年間の実績15,855,528人。

J-GREEN 堺やくら寿司スタジアム堺、大浜体育館・大浜武道館などの大規模スポーツ施設を有効活用した全国大会の誘致やトップレベルチームのホームゲーム開催は、本市のスポーツ魅力の創出につながります。

また、魅力を高めることでスポーツへの関心や参加機運を醸成し、身近な市内体育館でのスポーツ活動の促進を通じて、市内体育館の利用者数の増加につながります。

このため、スポーツ魅力の創出の指標として、5年間における市内体育館等スポーツ施設利用者数の増加を目標指標に設定します。

目標指標としては、平成27年度から令和元年度の5年間の利用者実績累計に対して、計画期間の5年間の累計で、100万人の利用者数増加をめざします。

なお、目標達成に向けては、新型コロナウイルス感染拡大予防のためのガイドラインの遵守や3密対策などの感染拡大防止の十分な対策を行い、施設の利用者数増加に向けたスポーツ推進に取り組みます。

<目標達成に向けて>

基本方針 2

堺のスポーツ魅力の創出

施策 1

特色ある大規模 スポーツ施設の活用

～主な取組～

- 「東京2020オリンピック・パラリンピック」によるスポーツ機運の醸成
- 「ワールドマスターズゲームズ2021関西」(サッカー・フットサル種目)の開催
- 武道の全国大会等の開催

施策 2

堺ゆかりのトップレベル チームとの連携強化

～主な取組～

- 堺プレイヤーズのホームゲーム開催(大浜体育館)
- 民間のスポーツ情報サイトを活用したホームタウンの情報発信
- 部活動やのびのびルームへのスポーツ指導者派遣

施策 3

世界で活躍する 次世代人材の育成

～主な取組～

- JFAアカデミー堺と連携した人材育成
- トップアスリートによる子ども向けスポーツ教室の開催
- スポーツ少年団活動の充実

現状値

市内体育館等スポーツ施設利用者数

過去5年間実績
平成27年度～令和元年度

15,855,528人

内訳 J-GREEN堺 3,935,496人 + 体育館 6,514,561人 + テニスコート・野球場等の施設 5,405,471人

目標に向けた主な取組

- ・照明設備増設等による利用促進 (J-GREEN堺)
- ・プロ野球2軍戦開催 (くら寿司スタジアム堺)
- ・ホームゲーム開催や全国大会誘致 (大浜体育館・大浜武道館)
- ・スポーツ教室やイベントの開催 (体育館、テニスコート・野球場等の施設)

令和3年度末累計 1,605万人

令和4年度末累計 1,625万人

令和5年度末累計 1,645万人

令和6年度末累計 1,665万人

令和7年度

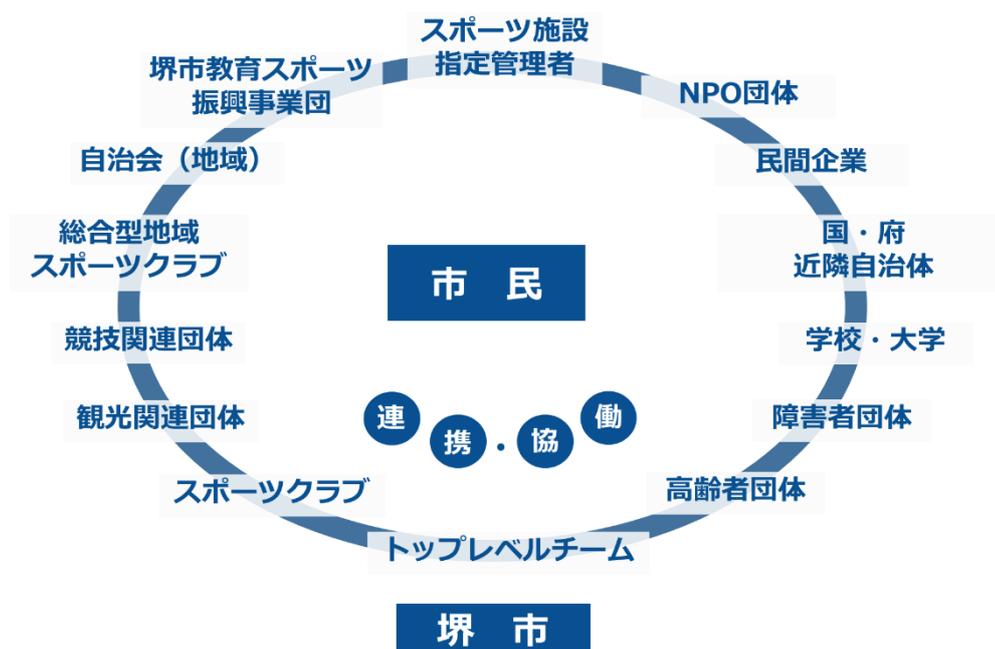
令和3年度
～
令和7年度

1,685万人
5年間累計 100万人増 ↑

4 推進体制

本プランに掲げた基本理念の実現や基本方針の推進にあたっては、行政だけでなく、トップレベルチームや競技団体、学校・大学、民間企業、NPO 団体等との連携や協働が重要となります。

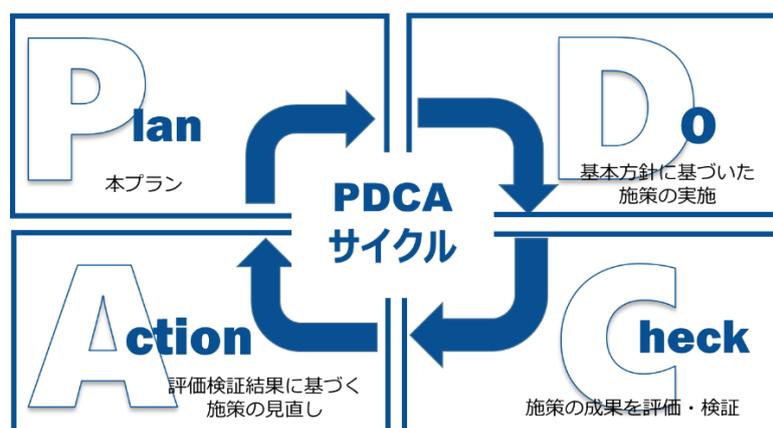
そのために、本プランをこれらのスポーツ関係団体と広く共有し、効果的な推進体制の構築を図ります。



5 進行管理

本プランの実効性を高め、効果的・効率的な推進を図るためには、適切な進行管理が必要です。

PDCA サイクルによって、本プランで示した施策や取組の進捗状況等を定期的に把握・評価し、目標達成に向けた取組を着実に推進します。



資料集

1 堺市のスポーツ施設

市内スポーツ施設一覧（市・府所管分のみ）

施設の区分（種類）	スポーツ施設	
体育館・ スポーツセンター 15 か所	市 14 か所	○大浜体育館 ○鴨谷体育館 ○初芝体育館 ○金岡公園体育館 ○家原大池体育館 ○原池公園体育館 ○美原体育館 ○美原 B&G 海洋センター体育館 ○美原総合スポーツセンター ○人権ふれあいセンター（スポーツ・文化交流ホール） ○のびやか健康館 ○健康福祉プラザ（スポーツセンター） ○勤労者総合福祉センター（多目的ホール） ○青少年の家
	府 1 か所	○ファインプラザ大阪
野球場 17 か所 29 面	市 15 か所 26 面	○大浜公園野球場（2 面） ○三宝公園野球場（2 面） ○浅香山公園野球場（1 面） ○鴨谷野球場（2 面） ○初芝野球場（1 面） ○白鷺公園野球場（1 面） ○金岡公園野球場（3 面） ○陶器野球場（1 面） ○みの池野球場（2 面） ○さつき野球場（1 面） ○みなと堺グリーンひろば 《運動ひろば野球場（4 面）硬式野球場（2 面）》 ○原池公園野球場（1 面）（くら寿司スタジアム堺） ○晴美公園野球場（1 面） ○茶山公園野球場（1 面） ○庭代公園野球場（1 面）
	府 2 か所 3 面	○大泉緑地野球場（1 面） ○浜寺公園軟式野球場（2 面 ^{※1} ）
サッカーフィールド 1 か所 16 面	市	○J-GREEN 堺（16 面）
フットサルフィールド 4 か所 最大 12 面 ^{※2※3}	市	○J-GREEN 堺（8 面） ○のびやか健康館屋内フリーコート（最大 2 面 ^{※2} ） ○人権ふれあいセンター フットサルコート（テニスコート兼用）（1 面） ○原山公園多目的スペース（最大 1 面 ^{※3} ）

施設の区分（種類）	スポーツ施設	
テニスコート 16 か所 最大 89 面 ^{※2※3}	市 14 か所 最大 55 面	○大浜公園テニスコート（4 面） ○土居川公園テニスコート（2 面） ○荒山テニスコート（6 面） ○初芝テニスコート（6 面） ○金岡公園テニスコート(14 面) ○陶器テニスコート（4 面） ○多治井テニスコート(1 面) ○みの池テニスコート(2 面) ○さつき野テニスコート（2 面） ○美原総合スポーツセンターテニスコート（4 面） ○のびやか健康館グラウンド（3 面） ○のびやか健康館屋内フリーコート（最大 3 面 ^{※2} ） ○人権ふれあいセンター テニスコート（2 面、うち 1 面はフットサルコート兼用） ○原山公園多目的スペース（最大 2 面 ^{※3} ）
	府 2 か所 34 面	○大泉緑地テニスコート（14 面） ○浜寺公園テニスコート（20 面 ^{※1} ）
陸上競技場 1 か所	市	○金岡公園陸上競技場
武道館（場） 2 か所	市	○大浜武道館 ○初芝体育館弓道場
相撲場 1 か所	市	○大浜公園相撲場
プール 11 か所	市 9 か所	【屋外プール】 ○美原 B&G 海洋センター第 1 プール ○美原 B&G 海洋センター第 2 プール ○大浜公園プール ○金岡公園プール ○原山公園屋外プール（マルエス堺原山公園プール） 【屋内プール】 ○美原総合スポーツセンタープール ○のびやか健康館プール ○健康福祉プラザプール ○原山公園屋内プール（マルエス堺原山台ジム内）
	府 2 か所	○浜寺公園プール ○ファインプラザ大阪プール

施設の区分（種類）	スポーツ施設	
艇庫 1 か所	市	○美原 B&G 海洋センター艇庫
スケートボードパーク 1 か所	市	○原池公園スケートボードパーク
BMX 競技専用 モトクロスコース 1 か所	府	○サイクルどろんこ広場
アーチェリー場 2 か所	府	○ファインプラザ大阪アーチェリー場 ○浜寺公園アーチェリー場
運動広場 22 か所※1※4※5	市 19 か所	○白鷺公園運動広場 ○多治井運動場※4 ○みなと堺グリーンひろば芝生ひろば運動場※5 ○美原総合スポーツセンター多目的グラウンド※4 ○スポーツ広場（J-GREEN 堺） ○多治井自由広場 ○みの池自由広場 ○さつき野自由広場 ○西原公園自由広場 ○田園公園自由広場 ○御池公園運動広場 ○大池公園自由広場 ○晴美公園自由広場 ○茶山公園自由広場 ○庭代公園自由広場 ○荒山公園自由広場 ○鴨谷公園市民広場 ○青少年の家グラウンド ○人権ふれあいセンター運動広場
	府 3 か所	○大泉緑地球技広場 （球技広場・スポーツ広場 A・スポーツ広場 B） ○浜寺公園球技広場※1 （第 1 球技広場・第 2 球技広場・ソフトボール広場） ○ファインプラザ大阪グラウンド

※1 浜寺公園内の施設については、一部市外も含みます。

※2 のびやか健康館屋内フリーコートは、フットサルコート最大 2 面又はテニスコート最大 3 面となります。

※3 原山公園多目的スペースは、フットサルコート最大 1 面又はテニスコート最大 2 面となります。

※4 多治井運動場、美原総合スポーツセンター多目的グラウンドは、野球場としての利用も可。

※5 みなと堺グリーンひろば芝生ひろば運動場は、ソフトボール場 2 面及び多目的広場 1 面があります。

2 主なスポーツイベント

市民のスポーツへの関心を高めることを目的として開催しているスポーツ行事のうち、主なものは以下のとおりです。

①堺市種目別優勝大会

昭和 22 年に「堺市民体育祭」として堺体育協会（現・堺市スポーツ協会）の主催で開催され、以降「堺市種目別優勝大会」と改称されました。堺市スポーツ協会加盟団体が競技毎に大会を行っており、毎年約 2 万人の方々が参加しています。

平成 26 年からは、「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」の機運を高めるため、関西マスターズスポーツフェスティバルの冠大会としても開催されています。

②堺市スポーツ少年団中央大会

昭和 50 年より、堺市スポーツ少年団に登録している各種目の団体が、団員相互の交流を深め、日常の活動成果を競い合うことによって、スポーツ少年団員としての自覚を育てることを目的に、毎年 8 種目の競技大会と運動適性テストを金岡公園などで開催しています。

③堺市民マラソン

昭和 46 年から、市民スポーツの推進を目的として開催されている 3km と 10km のマラソン大会。小学生以上の市民が気軽に参加できるファミリーマラソンと、年齢・距離別でタイムを競う競技マラソンの 2 種目を大泉緑地で開催しており、毎年 2,000 人を超える方々が参加しています。

④KIX 泉州国際マラソン

平成 6 年から、泉州地域の 9 市 4 町（堺市、高石市、和泉市、泉大津市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町）が一体となって、泉州地域の活性化と健康増進を目的として開催されています。浜寺公園（堺市）をスタート地点、りんくう公園（泉佐野市）をゴール地点とするフルマラソン（日本陸連公認）と約 20km のチャレンジランが行われる大会であり、毎年約 6,000 人の方々が参加しています。

⑤堺市障害者スポーツ大会

平成 18 年から、スポーツを通じて市民の障害者に対する理解と認識を深め、障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的に、毎年 5 月頃に開催されています。身体障害者（児）及び知的障害者（児）を対象とした陸上、水泳、アーチェリー、フライングディスク、ボウリング、卓球（精神障害者含む）、ボッチャの個人競技 7 競技と 3 種目の団体競技にオープン競技を加え、金岡公園陸上競技場をはじめとした市内の各施設で開催しており、毎年約 450 人の方々が参加しています。

なお、本大会は、毎年秋に開催される「全国障害者スポーツ大会」の選考会を兼ねています。

⑥堺市障害者スポーツ・レクリエーション大会

昭和 51 年から、障害者の健康や体力の維持増進、社会参加促進、一般市民との交流による相互理解と友好を深めることを目的に、例年 11 月に開催されています。身体障害者（児）及び知的障害者（児）を対象とした軽スポーツを中心とした大会であり、毎年約 1,000 人の方々が参加しています。

⑦堺市精神障害者地域交流運動会（ハッスル運動会）

平成元年から、精神障害者の健康増進や体力向上、社会復帰及び自立と社会参加などを目的に開催されている運動会であり、毎年約 500 人の方々が参加しています。

3 スポーツ関係団体

本市の主なスポーツ関係団体として以下の団体があり、様々な活動を通じて本市のスポーツ推進に貢献しています。

①公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団

スポーツ・レクリエーションの振興を通じて、市民が健康で人間性豊かな生活を送り、かつ良好なコミュニティを形成することや青少年活動の振興を通じて、青少年自らが自主性と社会性を育み、心身ともに健やかに成長することに寄与することを目的として、平成 8 年 12 月に設立され、スポーツ振興自主事業やスポーツ施設管理運営事業などを行っています。

②堺市スポーツ協会

市民を対象とするスポーツ諸団体相互の緊密な協調連絡を図り、スポーツの推進を通じて、競技力の向上とスポーツ精神を養い、市民の健康増進と体力向上に寄与することを目的として昭和 22 年に「堺体育協会」（令和 2 年 4 月、「堺市スポーツ協会」に名称変更）が結成されました。以後半世紀以上にわたり、本市のスポーツ統括団体として、堺市種目別優勝大会や堺市民マラソンなどの大会を主催するだけでなく、堺市民オリンピックなどにも協力しています。

現在、本市におけるスポーツを各種目別に統括する種目団体など 33 団体が加盟しています。

令和3年4月時点での堺市スポーツ協会加盟団体一覧

堺市スポーツ協会（種目団体）		
堺市陸上競技協会	堺市バレーボール協会	堺市空手道協会
堺卓球協会	堺サッカー連盟	堺市太極拳団体協議会
堺ソフトテニス連盟	堺バスケットボール協会	堺綱引連盟
堺ソフトボール協会	堺体操協会	堺市ビリヤード協会
堺柔道協会	堺ハンドボール連盟	堺市ゲートボール連盟
堺市剣道協会	堺バドミントン協会	堺市グラウンド・ゴルフ協会
堺登山・ハイキング連盟	堺市テニス協会	堺市ラグビーフットボール協会
堺軟式野球連盟	堺少林寺拳法協会	堺市太極柔力球協会
堺弓道協会	堺アーチェリー協会	堺フルコンタクト空手道連盟
堺相撲連盟	堺市なぎなた連盟	堺市ゴルフ連盟

堺市スポーツ協会（組織団体）		
堺市小学校体育連合	堺市中学校体育連盟	堺市スポーツ少年団

③堺市スポーツ少年団

堺市スポーツ少年団に登録している各種目の団体に所属する団員が、スポーツ及びその他の文化的諸活動を通じて、心身を鍛練して体力を強め、人間性を陶冶し、良き社会人となることを目的とした組織であり、日本スポーツ少年団の加盟団体として活動しています。各種派遣事業（大阪府・近畿・全国スポーツ少年大会、全国交流大会、日独同時交流）や堺市スポーツ少年団の独自事業として、堺市スポーツ少年団中央大会などを行っています。

④堺市スポーツ推進委員会

スポーツ基本法に基づき本市が非常勤職員として委嘱し、市民へのスポーツに関する指導・助言を行っている「スポーツ推進委員」で組織されています。情報交換や相互の研鑽のための研修などの事業や地域スポーツ推進のための競技大会を主催、運営しています。

⑤堺市ボランティアスポーツ指導者会

「堺市スポーツ指導者」の資格を取得した約 80 名による組織で、積極的なボランティア精神により、スポーツイベント（堺市民オリンピック、堺市障害者スポーツ大会等）への協力や地域、職場等のスポーツ・レクリエーション活動の指導を行うなど各方面で活躍しています。

⑥特定非営利活動法人美原体育協会

こどもにスポーツの歓びを教え、地域・住民の体力づくりを推進し、スポーツの普及向上を図りスポーツ振興及び健康づくりに関する事業を行い、健康で明るい住民の育成に寄与することを目的として、昭和 50 年に設立されました。その後、平成 13 年に特定非営利活動法人の認証を取得し、スポーツ施設管理運営事業や地域のスポーツ推進事業などを行っています。

堺市スポーツ推進プラン

令和3年2月

堺市文化観光局スポーツ部スポーツ推進課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

電話:072-228-7437

配架資料番号:1-K4-21-0024